

アジアユースリーダーズ 2018

AKB Future Project 推進委員会

アジアユースリーダーズ 2018 in Jakarta

主催：公益財団法人イオンワンパーセントクラブ

- 日 程 平成 30 年 8 月 18 日（土）～25 日（土）8 日間
- 生 徒 85 名（日本 34 名、中国・マレーシア・タイ・ベトナム各 9 名、インドネシア 15 名）
本校生徒 3 名（4 回生 1 名 5 回生 2 名）
- 目 的 アジア各国の高校生が一堂に会し、社会問題をテーマに、英語を共通言語としてディスカッションを行う。異なるバックグラウンドを持つ学生たちが、議論を通してグローバル感覚や互いの価値観への理解を深める。
- テーマ 食育「インドネシアにおける食生活と改善点の提案」

インドネシアに 6 カ国の生徒が集まる

アジア各国の生徒が、9 名程度のチームに分かれ、レクチャーや体験活動等を通して、テーマに基づいた課題設定をし、ディスカッション、課題解決の方策について提案をします。アジア各国の生徒と、そして日本各地の生徒と交流できる貴重な機会でした。

インドネシアの食習慣について知る

本プログラムは、企業、政府、消費者それぞれの視点から知識をインプットする構成です。

企業の立場として、グローバル企業「ダノン」からインドネシアの現状分析と、教育や衛生に関する取組について講義がありました。

政府の立場としては、農業省、教育文化省から講義を受けました。国民の食習慣について分析し、政府としてどのように取り組んでいるのか、学校教育における食育の取組、各家庭の経済的な側面からの分析、国として国民への食習慣改善への働きかけなどについて説明がありました。

専門家の立場として、インドネシア大学の先生から栄養転換（Nutrition Transition）が国民にどのように影響し、どのように対処すべきか、ボゴール農科大学の先生からは、食習慣の変遷、食料廃棄、持続的な食習慣などについて説明を受けました。これらの講義の問題提起がその後のディスカッションのヒントになりました。



企業・学校訪問、インタビュー活動

企業訪問では、ヤクルトを訪問し、ヤクルトの働きについて説明を受け、製造工程を見学しました。学校訪問では、SMAN 7 8 高校を訪れました。先生からは生徒たちの食習慣について説明を受け、その後今までに学んだことについてディスカッションの時間が設けられました。

ディスカッションの前日には、イオンモールを訪問し、グループのテーマに関して、調査のため、買い物客にインタビューしました。

このプログラムで学んだこと

山場は、1 日がかりのディスカッションです。共通言語は英語で、意見をぶつけ合う一日です。翌日のプレゼンテーションに向けて、度のグループも精力的に取り組みました。

リーダーの役割は非常に大切なものでした。初めて会った 9 人を、どうまとめるかという重要な役割を担っていました。さらに、参加者自分の意見を積極的に発言することも大切なことでした。

【生徒の感想】（一部）

- ・食と健康について多くのことを学ぶことができた。また、アジアの友達がたくさんできた。
- ・ディスカッションの時など、何か思いついたことは、大きな声で発言することが大事だ。
- ・英語を通じてコミュニケーションを取ることがとても楽しかった。学校生活のことなども交流することができた。今回学んだことを、学校でも伝えていきたい。